

[成果情報名]黒毛和種去勢牛は肥育前期の濃厚飼料給与量を増やすことで27ヵ月齢で出荷可能である

[要約]黒毛和種去勢牛について、肥育期間を変えて飼養し、8ヵ月齢からの濃厚飼料の増給量を1.5kg/月として27ヵ月齢で出荷しても枝肉成績は慣行体系の30ヵ月齢出荷と遜色ない枝肉成績が得られる。

[キーワード]黒毛和種去勢肥育牛、早期出荷、肥育期間短縮

[担当]佐賀県畜産試験場・大家畜部・大家畜研究担当

[代表連絡先]電話 0954-45-2030

[分類]研究成果情報

[背景・ねらい]

これまで肥育農家は、市場評価の高い枝肉を目指すため長期の肥育期間を要し、生後30ヵ月齢前後での出荷を行ってきた。出荷月齢を早期化し肥育期間を短縮することは、出荷回転率の向上や飼料コストの低減による経営の安定化に有効と考えられるが、出荷月齢の早期化によって肉質の市場評価の低下が懸念される。そこで当場では、出荷月齢を通常約30ヵ月から3ヵ月早期化しても、きめ・しまり等の問題が発生せず、「佐賀牛」としての肉質・肉量を維持する飼養管理法の確立に取り組んでいる。

本研究では、肥育期間を短縮する肥育期間短縮区（以下期間短縮区）、肥育開始の月齢を早める肥育早期開始区（以下早期開始区）の2区を設け、約27ヵ月齢での出荷を行い、30ヵ月齢出荷（以下慣行区）との比較を行う。

[成果の内容・特徴]

1. 慣行区、期間短縮区は8ヵ月齢から肥育を開始しそれぞれ30ヵ月齢、27ヵ月齢で出荷し、早期開始区は6ヵ月齢から肥育を開始し27ヵ月齢で出荷する。飼料給与量は、27ヵ月齢で出荷する場合、約8～9ヵ月齢からの濃厚飼料増給量を1.5kg/月/頭に設定する（図1）。
2. 生体重量や日増体量は27ヵ月齢で出荷した場合、30ヵ月齢の出荷と遜色ない（表1）。
3. 格付成績は27ヵ月齢で出荷した場合、30ヵ月齢の出荷と遜色ない（表2）。
4. 1頭当たりの飼料費は肥育期間を短縮することで下がる（表3）。

[成果の活用面・留意点]

1. 本研究において、27ヵ月齢で出荷した牛については、きめ・しまりによる格落ちはなかった。
2. 8～12ヵ月齢の粗飼料の摂取量が少ない場合、約14ヵ月齢以降の濃厚飼料の摂取量が少なくなる場合がある。
3. 1代祖を佐賀県の認定種雄牛「勝二」号に統一した、自家産牛を用いた結果である。

[具体的データ]

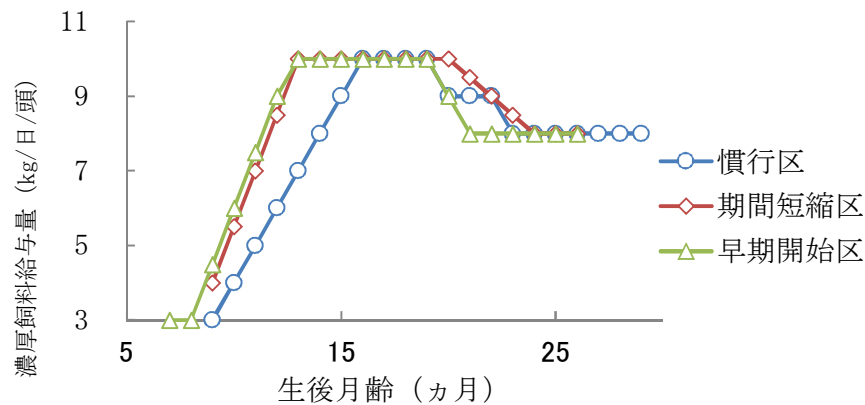


図1 各試験区の濃厚飼料給与設定量

- 濃厚飼料は市販飼料として、子牛育成用 (TDN70.0%以上、CP16.0%以上)、肥育前期用 (TDN71.5%以上、CP16.0%以上)、肥育中期用 (TDN73.0%以上、CP11.0%以上)、肥育後期用 (TDN74.0%以上、CP9.0%以上) を用いた。
- 早期開始区は6ヵ月齢から8ヵ月齢にかけて子牛育成用飼料から肥育前期用飼料に切り替えた。
- 慣行区は約8ヵ月齢からの濃厚飼料給与量を1.0kg/月、他2区は1.5kg/月で増給する。
- 粗飼料は、スーダングラスを慣行区、期間短縮区は13ヵ月齢まで、早期開始区は11ヵ月齢まで飽食として、その後は稲わらを各区1頭当たり1.0kg以上給与した。

表1 各試験区の成績

	慣行区 (n=8)			期間短縮区 (n=6)			早期開始区 (n=5)		
出荷時生体重 (kg)	791.1	± 69.4	ns	723.7	± 33.5	ns	765.0	± 32.5	ns
日増体量 (kg/日)	0.82	± 0.10	ns	0.85	± 0.05	ns	0.91	± 0.05	ns

1) 数値は平均値。

表2 各試験区の枝肉成績

	慣行区 (n=8)			期間短縮区 (n=6)			早期開始区 (n=5)		
枝肉重量 (kg)	531.8	± 53.8	ns	483.0	± 22.3	ns	508.3	± 20.5	ns
胸最長筋面積 (cm ²)	60.6	± 3.7	ns	60.2	± 4.0	ns	68.4	± 8.0	ns
バラの厚さ (cm)	9.1	± 1.1	ns	8.7	± 0.4	ns	9.5	± 1.0	ns
皮下脂肪の厚さ (cm)	3.2	± 0.8	ns	2.6	± 0.5	ns	2.8	± 0.3	ns
歩留基準値	73.9	± 1.4	ns	74.7	± 0.8	ns	75.7	± 1.3	ns
BMS No.	9.1	± 1.7	ns	10.5	± 1.3	ns	11.0	± 1.1	ns

表3 肥育期間の飼料費概算

	慣行区	期間短縮区	早期開始区
飼料費	¥355,737	¥294,858	¥338,331
肥育期間	21.9ヵ月	18.9ヵ月	20.4ヵ月

1) 実際の飼料摂取量から算出。

2) 1kg当たり単価を濃厚飼料は55円、粗飼料はスーダングラスを55円、稲わらを40円として試算。
(狩又亮治)

[その他]

予算区分：県単

研究期間：2014～2017年度

研究担当者：狩又亮治、中村陽介、加茂辰生

発表論文等：1) 狩又ら (2017) 肉用牛研究会会報、104：35

2) 狩又ら (2018) 肉用牛研究会会報、106号 掲載予定